

<49> 指揮者のために。コラ人による。賛歌。

49:1 すべて国々の民よこれを聞け。すべて世に住む者よ耳を傾けよ。
 49:2 低い者も高い者も富む者も貧しい者もともどもに。
 49:3 私の口は知恵を語り私の心は英知を告げる。
 49:4 私はたとえ話に耳を傾け豎琴に合わせて謎を解き明かそう。
 49:5 なぜ私はわざわざわいの日々に恐れなければならぬのか。私のかかとを狙う者の悪意が私を取り囲むときに。
 49:6 彼らは自分の財産に拠り頼み豊かな富を誇っている。
 49:7 兄弟さえも人は贖い出すことができない。自分の身代金を神に払うことはできない。
 49:8 たましいの贖いの代価は高く永久にあきらめなくてはならない。
 49:9 人はいつまでも生きられるだろうか。墓を見ないでいられるだろうか。
 49:10 彼は見る。知恵のある者たちが死に愚かな者浅はかな者も等しく滅び自分の財産を他人に残すのを。
 49:11 彼らの心の中ではその家は永遠に住まいは代々に及ぶ。彼らは土地に自分たちの名をつける。
 49:12 しかし人は栄華のうちにとどまれない。人は滅び失せる獣に等しい。

富に関連して、神様を讃える歌です。この世では、「低い者も、高い者も、富む者も、貧しい者も」いて、不公平のように思いますが、みな「ともども



に「耳を傾け」るべきことであると、詩人は言っています。どんなに富んでいても「おのれの財産に信頼する」ことは無力です。一番欲しいものは財産です。手に入らないからです。それは人生そのものであり、命です。「人は自分の兄弟をも買い戻すことはできない。」とあるとおり、お金の神に赦されることはないのです。では何が必要かというと、「・・・たましいの贖いしろは、高価であり、永久にあきらめなくして贖いしろを差し出してくださいます。イエス様もな。富んでいる者もいつ状況が変わるか分りません。乏しさを感じていても、本当の豊かさは財産にはないことを知りましょう。そして、絶対にお金では買えない主の救いと守りがあることに感謝しましょう。主からいつも幸いをいただきますように。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたなどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

